

PM決定後の推進状況

○CSTI本会議（6/24）

- ✓ PM12名を決定

○ImPACT推進会議（6/26）

- ✓ PM12名から研究開発プログラム構想を紹介。
- ✓ 大臣、有識者議員との間で意見交換。
- ✓ PMに対し、活動の足場固めとプログラムの作り込み開始を指示。

○PM個別面談、PM説明会（6/30）

- ✓ 久間・原山議員がPMと個別に面談し、作り込みの留意事項を説明。
- ✓ 内閣府・JSTより、PMに対して、PM活動実施上、当面必要な情報を提供。
(プログラムの作り込み方法、プログラム実施管理のポイント、PM支援体制、雇用関係など)

○レビュー会（7/15, 8/14）

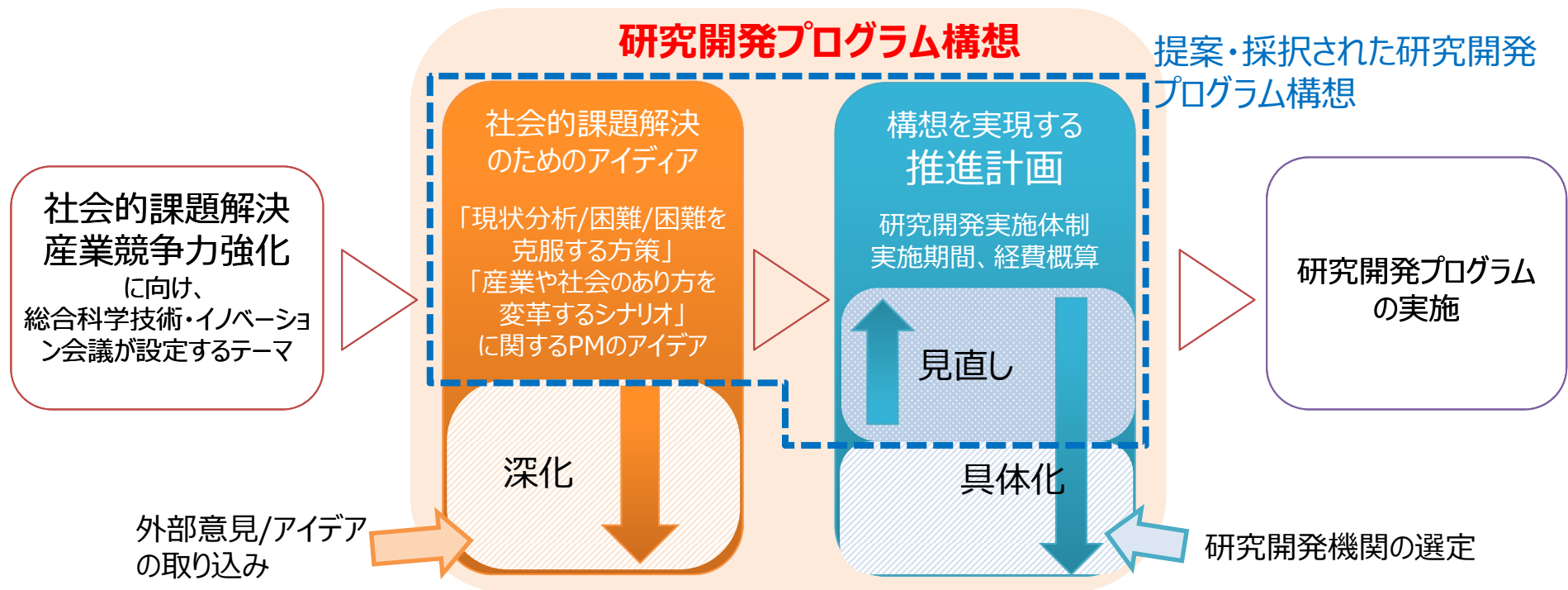
- ✓ ImPACTの主旨に沿ったプログラムの作り込みが行われているかを確認。
- ✓ 久間・原山・橋本議員により、各PMからヒアリングを実施し、必要に応じて助言。



PMによるプログラムの作り込み

PM が応募時に提案した研究開発プログラム構想を、更に深化させつつ、構想実現を具体化するため、所要の時間と経費支出が認められているのもImPACTの特徴（プログラムの作り込み）。

1. 研究開発プログラム構想の深化
 2. 研究開発機関の選定
- } →
3. 研究開発プログラム構想の見直し
(研究開発プログラム全体計画書)



- ✓ アプリケーションの明確化と出口スペック定量化・具体化、様々な出口の基盤ともなり得るプログラム構想の再構成。
- ✓ プログラム構想の工夫（既存施設・設備の利活用、研究プロジェクトの重点化、他資金活用など）
- ✓ 国費を投ずるべき課題への集約化。等

- ✓ PMが中心に位置づける技術選択や手段の合理的説明。
- ✓ 各プロジェクトの具体的マネジメント手法の明確化。等

研究開発プログラムのマネジメントの事例

各PMが作り込んでいる研究開発プログラムの体制・マネジメントの方法は、画一的ルールで縛ることなく、具体的かつ高いレベルの目標に挑戦するため、各PMの工夫・努力により、さまざまな手法が検討されている。

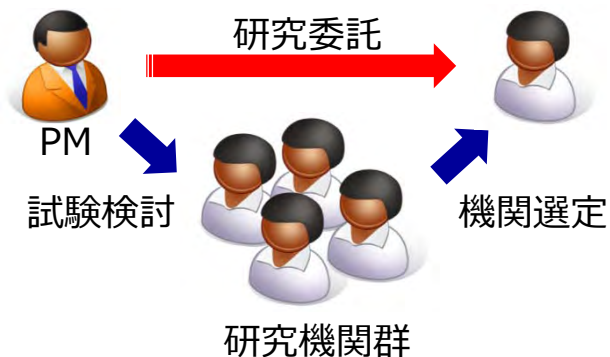
○ステージ・ゲート方式

ステージ・ゲートを設け、研究機関の段階的絞り込みを実施



○フィージビリティスタディ

PMが研究機関群に、試験的な検討をさせ、その実行可能性・実現可能性を検証し、その後の実施機関を選定。



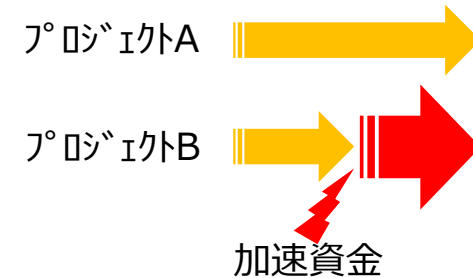
○PM間での大型インフラの共同使用

SPring-8にImPACT専用ビームラインを確保し、プログラム間で共同使用



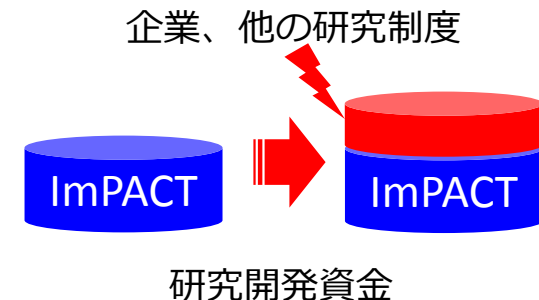
○研究開発加速資金の確保

進捗状況や必要性に応じ、PMの判断で研究費を増額



○外部資金の獲得

他の研究制度や企業出資金とのマッチングファンド

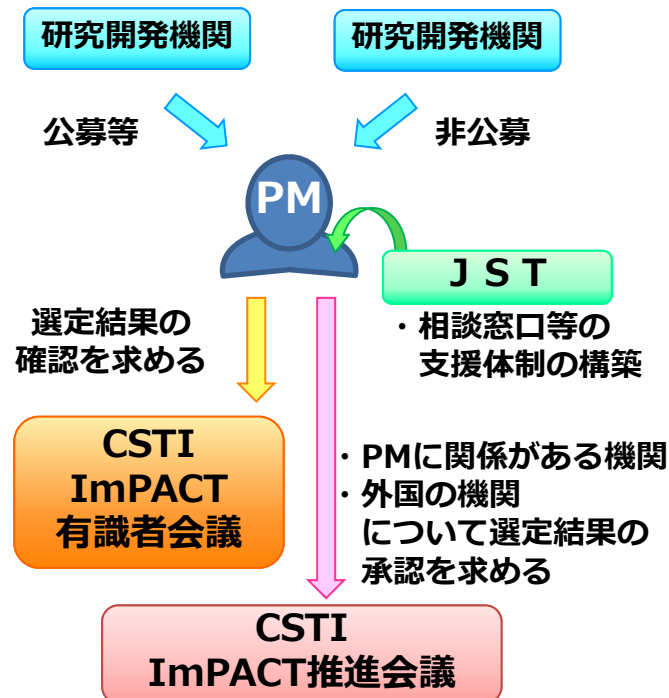


PMによる研究開発機関の選定方法

【考え方】

- ✓ PMは自らの構想実現のため、必ずしも公募に限らず、PMによる指名など、PMが根拠を持って適切と判断する研究開発機関を選定できる。
- ✓ 選定の方法・手順・結果等は、PMがその必要性・妥当性を合理的に説明することが必要。また、専門家だけではなく、納税者たる国民の理解が重要。
- ✓ PM自身が必要な説明責任を果たし、関係者の理解・同意を得られることを前提に、PMに研究開発機関の判断権限が与えられている。

【確認・承認手続き】



【研究開発構想から機関選定の流れ】

- ✓ 研究開発構想を具体的目標を持つ個々の課題へブレークダウン
 - ✓ それぞれの課題目標への到達アプローチ
 - ✓ そのアプローチに最適な実施機関の選定方法
- といった一連の流れとして、研究構想実現のための機関選定方法を戦略的に練る必要がある。

【具体的な機関選定の方法】

- ① 公募: PMが求める成果・スペック、仕様を具体的に示し、一定期間、広く一般に募り、競争の中で最も優れた機関を選定
- ② 非公募
 - ア. 競争性あり: PMが複数の者をWS開催等を経て指名し、その後、被指名者に提案書の提出を求め、競争させる
 - イ. 競争性なし: PMにより1者を指名